

1. 部門目標

千葉県保健医療計画において示された千葉市の地域小児科センターとしての役割を担うべく、小児救急拠点病院として充実を図り、小児総合診療の幅を拡大し地域の小児医療に貢献します。1) 内因系・外因系疾患を問わず、常時小児救急患者を受け入れます。2) 最善の医療のため多職種によるチーム医療を実践します。3) 健診（院内外）および予防接種の実施など小児保健診療へ参加します。4) 1次医療機関、3次医療機関、消防局、保健所、児童相談所、千葉市医師会など他の関連機関と円滑な連携をし、地域医療を支援します。5) 地域の小児食物アレルギー診療の基盤となるよう、食物経口負荷試験を実施していく。6) 小児科専門研修基幹施設として小児科専攻医を指導・育成します。7) 公開カンファレンスを開催して地域の小児医療の質向上に貢献します。8) 千葉大学病院総合診療科専攻医、初期研修医、千葉大学医学部学生などの研修施設としても充実を図ります

2. 勤務体制とスタッフ

①勤務体制

常時小児科医が小児救急患者を受け入れる体制になっています。夜間、土、日、祝日は、日勤・夜勤の小児科医が割り当てられ、常時小児科医が在院する体制となっています。日中は救急当番の小児科医が迅速に対応をしています。17時から22時までの千葉市夜間応急診療を含む救急外来において、小児専従看護師による院内トリアージにより救急外来の適正化を図っています。緊急性が高い患者は、平日はシフト勤務医師が対応し、日・祝日は小児科救急外来担当医師が対応します。平成30年2月より千葉市夜間応急診療の前準夜帯を週1回月曜日（第1月曜日を除く）に、平成31年2月より千葉市夜間応急診療の深夜帯を週1回水曜日に小児科専攻医・千葉大総合診療科専攻医が担当しています。

②スタッフ

平成31年4月1日時点

院長	寺井 勝
副院長・小児科統括部長	金澤 正樹
感染症内科部長	阿部 克昭
部長	杉田 恵美
主任医長	廣瀬 陽介
主任医長	加藤 いづみ
主任医長	森山 陽子
医長	小玉 隆裕
医長	寺中 さやか
医長	光永 可奈子
医長	小口 萌
医長	鋪野 歩
専攻医	天野 純
専攻医	山口 亮
専攻医	原木 悠
専攻医	近藤 丈太
専攻医	近藤 優帆
専攻医	奥田 裕也
専攻医	吉野 忠恕

専攻医	廣瀬 健陽
専攻医	大関 壘
専攻医	松本 恵
専攻医	内田 瞬

令和元年10月に、立野 滋先生が千葉県循環器病センターから当院に異動となり、小児科部長に就任。小口 萌先生が退職され、東京女子医科大学八千代医療センターに異動。小児科専攻医が小児科専門研修のプログラムに沿い、異動があった。

③外来（平成31年4月1日時点）

専門外来

月曜：地引利昭・松井拓也（循環器）、千葉大医師（内分泌）、武之内史子（小児外科）

火曜：千葉大医師（神経）、阿部克昭（感染症）

光永可奈子（アレルギー）、小原由紀子（小児外科）

水曜：田邊雄三・高梨潤一（神経）

木曜：寺井 勝（循環器）、亀ヶ谷真琴（整形外科）、橋本祐至（神経）

金澤正樹（代謝・消化器）、千葉大医師（小児外科）

金曜：寺井 勝（循環器）、阿部克昭（感染症）加藤いづみ（アレルギー）、小原由紀子（小児外科）

小児一般外来

石和田文栄、杉田恵美、廣瀬陽介、森山陽子、小玉隆裕、平井 希、他

3. 診療実績

外来延べ患者数：19,946人（初診：5,416人、再診：14,530人）、紹介患者数：2,025人

新規入院患者数

新規入院患者数	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
小児科	1,941	2,132	2,272	2,083	2,202

救急車搬送受入数

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
小児科	1,010	1,251	1,564	1,724	1,716
小児科夜急診	827	799	727	617	641
小児科総数	1,837	2,050	2,291	2,341	2,357

〈主な入院患者の疾患別内訳〉

食物経口負荷試験検査 775件、急性肺炎、気管支喘息発作、急性細気管支炎、感染性胃腸炎、川崎病、尿路感染症、熱性けいれん・てんかん発作などの神経疾患、ネフローゼなどの腎疾患などのコモン疾病が大多数を占めた。けいれん重積、急性脳炎・急性脳症、髄膜炎、腸重積症、アナフィラキシーなどの緊急性の高い疾患も多数受け入れた。頭部外傷、臓器損傷、薬物誤飲などの外因系疾患も多くなりました。

4. 教育・研修・その他の活動

①教育・研修

当院の小児科専門研修プログラムが日本専門医機構に承認され、基幹型病院として新制度による小児科専攻医の専門研修を実施しています。平成31年度本院採用の小児科専攻医は4名でした。

初期研修医延べ15名、小児科専攻医・後期研修医延べ11名、千葉大学病院総合診療科の専攻医延べ2名の小児科研修が実施されました。千葉大学医学部学生8名の小児科実習を行ないました。平成31年度末で千葉市小児科医会と共催している海浜病院公開カンファレンスは264回を迎えました。

②その他の活動

千葉市の4か月健診、大網白里市の4か月健診、学校心疾患二次検診、細菌尿検査精密検診に参加しました。千葉アレルギーネットワーク（特定非営利活動法人）主催アレルギー大学、青葉看護学校、消防局の講義に講師を派遣した。千葉市要保護児童対策地域協議会実務者会議に6回参加しました。

5. 1年間の総括

前年度に比し、新規入院患者数(2,083→2,202)とやや増加しました。救急車搬送受入数大きく変化ありません。軽中等症の外因系疾患も応受する体制が維持され、養育支援、虐待対応の件数も増加しています。新たな専門医制度のプログラムにより、連携施設間での専攻医の交流が定着し、診療の幅の拡大や質の向上が求められています。次年度に心臓血管外科の手術再開に向けて、立野 滋先生がスタッフとなり、小児循環器疾患患者の数は増加しましたが、移行期医療として成人先天性心疾患の患者さんも小児科医が関与しています。

6. 今後の目標

次世代の小児医療を担う医師を育成するため、小児科専門研修施設としてよりいっそうの充実を図る。小児医療において問題となっている移行期医療や社会的養護を要する貧困や虐待などの対応、重症心身障がい児者のケア、発達障害・精神・行動・心身医学的な診療に対し、地域の需要に応えられるように整備していきます。

小児科 HP：<https://hospital.city.chiba.jp/kaihin/department/section/pediatrics/>

海浜病院リクルートサイト：<http://chibacity-kaihinhp-recruit.jp/>